

高知の

祭

Part 3

よさこい

発祥の地

高知で生まれた「よさこい鳴子踊り」は、①曲の中に原曲「よさこい鳴子踊り」のフレーズを入れる②鳴子を持って前進する——などのルールを守れば、衣装も音楽も自由。まさに、個性を重んじる土佐人気質を感じる祭りである。

よさこい鳴子踊り

作詞・作曲／武政 英策

ヨッチョレヨ

ヨッチョレヨ

ヨッチョレヨ

ヨッチョレヨ

ヨッチョレヨ

ヨッチョレヨ

高知の城下へ来てみいや ソレ
じんまも ばんばも よう踊る
鳴子両手に よう踊る よう踊る
土佐ノ ヨイヤサノ サノサノ
高知のはりまや橋で
ヨイヤサノ サノサノ
坊さんかんざし買うをみた ソレ
よさこい よさこい ホイホイ



南国の青い空に鳴子の音が響きわたると、土佐の真夏の祭典「よさこい祭り」が開幕する。エネルギーギッシュで華やかな南国土佐の夏の祭典として、今や全国のみならず世界各地で踊られている「よさこい」は、もとは戦後の不景気を吹き飛ばし、市民を元気づけよつと、1954（昭和29）年に高知で誕生した祭りである。当初750人ほどが参加したよさこいは、祭りを愛する市民の手によって大きく



よさこい

豆 ち し き

鳴子

naruko



鳴子を持って踊るのは、よさこい鳴子踊りの数少ないルールの一つ。色や形に工夫を凝らしたものもあり、初めて踊る観光客の方も、鳴子を振れば自然とリズムに乗れる。鳴子を使って踊る祭りは、今や全国200カ所以上で行われている。

踊りと衣装

dance & costume

民謡「よさこい節」をもとに誕生したよさこい鳴子踊り。当初は、浴衣と下駄の盆踊り風が主流だったが、今では正調よさこい節からサンバ・ロック・ジャズ・レゲエなど、無数のアレンジがある。各チームのさまざまな踊りと衣装は、よさこいの大きな魅力となっている。



地方車

jikatasya



列を組んで踊る踊り子の前をゆっくりと進む地方車は、いわばお祭りの「やぐら」であり、車の上はよさこいのライブステージとなる。さまざまな飾り付けは各チームの腕の見せどころである。



ヨッチョシ
ヨッチョシ

高知よさこい情報交流館

高知市はりまや町 1-10-1



本場高知の「よさこい祭り」の歴史や魅力を発信する「高知よさこい情報交流館」が、2013(平成25)年4月にオープン。

迫力ある150インチの大型スクリーンでよさこいの歴史を上映するほか、実際に鳴子を手にして踊りを楽しむことができるよさこい体験コーナーなど魅力満載。

- 開館時間 ● 10:00~18:30
- 休館日 ● 水曜日、12月29日~1月1日
- 入場料 ● 無料
- アクセス ● はりまや橋から東へ徒歩3分

成長してきた。
毎年8月9日に前夜祭が行われ、10日・11日・12日の4日間にわたって開催される。踊りの会場となる追手筋や帯屋町アーケード、中央公園などでは、約200チーム、1万8000人の踊り子が衣装や踊りに工夫を凝らし、地方車を華やかに飾り付け、高知のまちをよさこい一色に染め上げる。

最終日の12日に開催される「よさこい全国大会」は、全国の「よさこい人」の交流を目的に1999(平成11)年にスタートした。全国各地から集結したよさこいチームの地域色豊かな踊りと、10日・11日のよさこい祭り本番で受賞したチームとの競演は、本場高知で開催されるよさこい祭りならではの見過ごることもある。

